

日体魂

日本体育大学
東京都同窓会会報

第20号

平成28年12月1日発行
発行者 東京都同窓会長
高田 幸一

平成二十八年度

東京都同窓会

総会報告

副会長 大瀧吉夫

日本体育大学東京都同窓会の総会が、七月十六日（土）十五時二十分から東京・世田谷キャンパスの五階大会議室にて開催されました。

当日はご来賓として、瀧澤康二氏（同窓会会長）・塩谷和夫氏（同窓会幹事長）・後藤彰氏（教職支援センター長）・清水紀子氏（東京都保護者会会長）のご臨席の中、高田幸一東京都同窓会会長の開会の挨拶でスタートしました。

会に先立ち、長年にわたり東京都同窓会にご尽力された八名（荒川御幸様・野口和矩様・大山邦夫様・大河内保雪様・中村雅人様・脇坂浄教様・佐藤勝様・桜庭清徳様）の方々に、瀧澤同窓会会長より功労者表彰が授与されました。



続いて、司会者より議決権者の確認がなされ、総会が成立する旨を報告、角杉美恵子副会長を議長に指名し、議案審議に入りました。

・一号議案

平成二十八年度役員・地区幹事の一部変更が提案されました。

・二号議案

会則の改定 高山士規約改正委員長より以下の改正案

が提出されました。

会則第四条地区幹事名称変更・第六条追加項目・第七条理事設置・第九条・第一〇条 役員の職務

・三号議案

会務・会計報告

（二十七年、二十八年度）

・四号議案

会計監査報告

第一号議案から第四号議案まで、全議案とも厳粛に審議が行われ、満場一致で滞なく可決承認されました。

総会終了後は恒例の研修講座が開催されました。大山茂氏（学生支援センターキャリア支援部門長）を講師にお招きし、演題は「大学の現状と同窓会の繋がりについて」で、学生の就職状況や企業等々の求人状況の説明を聞くことができました。学生の就職への希望が年々減少している反面、教職以外で活躍している卒業生が増加している現状を知り、昔の日体生のイメージから認識を改めている方々も多かったようです。教職関係の希望学生は現在二割〜三割程度だそうです。短時間の研修でしたが、有意義な研修会となりました。



その後、学生食堂にて懇親会が開催されました。日本体育大学理事長松浪健四郎氏をお招きし、今後の日体大の経営方針等々の講話をいただき、続いて柳田彰様（昭和二十二年卒）の乾杯のご発声で懇親会をスタートしました。途中から現役の学生も会に参加し、和気藹々の中、盛会のうちに終了することができました。

関東北信越地区協議会
東京大会報告
会長 高田幸一

十月八日、九日に、東京都同窓会主催の関東・北信越地区協議会が開催されました。役員の皆様のご協力で無事成功裏に終えることができました。二年前からの準備委員会、実行委員会、当日と本日に感謝申し上げます。

参加各県から、様々な取り組みが報告されました。例えば、学生の就職セミナー開催を大学と連携している。ホームページを開設し新会員を集めている。女性による活動が非常に活発で、そのノウハウを他県が参考にして会員を増やしているなどでした。

同窓生の企業への就職が七割近くになった現在、同窓会の在り方も変化をしていくことが大切です。都同窓会では、世代交代も考慮して新会員の獲得に、魅力ある組織になっていくことが求められています。任意団体としての課題もあります。全国同窓会と志を共に組織力をつけ、会員同士の信頼や活動の情報を共有することが大切であると考えています。

会員の皆様が、参加してよかったです。活動のコツと積み上げていくことがこれからの必要であると考えます。

平成二十八年度
関東北信越地区協議会
東京大会が開催される
副会長 竹内定雄

十月八日（土）午前より同窓が集まり始め、懐かしそうにチャンス像の前でシャッターを押す姿がありました。今年の関東北信越地区協議会は東京開催で、母校を会場として開催しました。

日本体育大学は今年百二十五周年の記念の節目で、記念行事など多忙な時に全面的な協力を頂きました。午前中希望者で深沢キャンパスの体育棟を見学しました。素晴らしい充実した諸施設に感嘆の声が連発しました。

午後一時、大会議室に十三都県の代表が集まり、今村裕常務理事、松井幸嗣副学長、瀧澤康二同窓会会長他多数の来賓の出席を得て全体会が開催されました。

今村裕常務理事からは大学の経営実態と今後の展望、横浜健志台キャンパスの細かな説明があり、全て盤石であるとお話でした。

松井副学長からは「スポーツ文化学部」の開設で学生数約六千七百名の体育大学に発展する。百二十五周年記念式典で「功労スポーツマイスター」の授与が行われたと報告がありました。

瀧澤同窓会長からは都道府県の同窓会支部活動の充実と「ワン・ファミリー化」を強く訴えられました。

全体会終了後、参加者全員が正面玄関に移動して記念写真を撮り、各分科会会場に分かれて熱心な意見交換を行いました。

第一分科会では、同窓会の活性化が中心議題として話し合われました。若い卒業生の同窓会離れの対策、同窓会と保護者会との連携、教員採用試験の支援活動と大学との調整等について各都県の取り組みが報告されました。教育実習生の指導上の問題点など活発な話し合いが行われました。

第二分科会では、全国同窓会副会長（企業人代表）渡辺健氏と同



じく（女子代表）伊藤延世氏の参加のもと全国同窓会の現状報告がありました。企業に就職した会員の確保とPRの重要性が話され、今後益々増加する企業に就職する

同窓の扱いを考慮することが急務であると指摘されました。また、各都県での女子部の活動が報告され、女子会員確保の取り組みについて活発な意見交換がありました。企業人と女子会員と同窓会の係わり

第三分科会では校友課からの説

明が主な内容でした。同窓会と保護者会との連携を密かにしていくこと、また、ホームページの活用についての話題が多く出され、東京のホームページの活用実態を次の機会に報告するよう提案されました。

再度、全員参加の報告全体会では、全国同窓会幹事長より全国同窓会の事業について、「日体フェスティバル」の概要、イベントの案内等の資料説明がありました。

アドミッションセンター事務長より入学試験結果報告と入試変更点について説明。就職の多様化、

とくに一般企業の就職が多くなっている等、配布資料で細かな説明がありました。また、2020年の東京オリンピック パラリンピックに向けて有望選手の強化、指導者の育成など日体大は積極的に活動をするとお話でした。網走

んでした。宴も終盤、鉢巻姿も凛々しく登場した高梨昭実行委員の指揮で校歌、寮歌を歌い上げ、永嶋龍児埼玉県会長の発声で万歳三唱、大瀧吉夫東京同窓会副会長の閉会のことばで来年の福井県芦原での再会を約し散会しました。

一年前から準備に取り掛かりましたが、校友課と東京同窓会委員の皆様のご協力により無事成功裡に閉会することができました。感謝申し上げます。

学生支援センター事務長からは、就職状況の解説、入学時の進路希望と卒業時の進路決定についてのデータの説明がありました。最近の進路状況では、教員、公務員、企業と多岐に亘る細かな進路があり、時代の変化を痛感させられた資料でした。

福井県 阿部登記造会長より次期の開催計画が発表されました。

「平成二十九年十月十四日（土）十五日（日）福井県芦原温泉」にて開催予定。

会場を一階の食堂に移し総勢約六十名の懇親会が開催されました。

大石巧造法人理事の挨拶で開会し開襟を開いて楽しく懇談しました。

今回は特別メニューに昔懐かしい「かっぱの煮込み」を加えました。大好評で皆さん何杯もお代わりをされ、うれしい限りでした。学生時代に、恩師の話、クラブでの話題、寮生活の話題と尽きませ



教員採用候補者選考
試験対策講座報告

教育支援委員会
委員長 小橋川和子

今年度も、例年通り東京都同窓会教育支援委員会主催の「同窓生のための同窓生による」教員採用試験対策講座を開催いたしました。平成二十九年度採用、教員採用試験対策講座に四十名の申し込みがあり、前期は土曜に実施、四月十六日、四月二十三日、四月三十日、後期は日曜日実施で六月十九日、六月二十六日計五回実施しました。担当講師は、同窓の元小・中・高の管理職経験者です。講座開催に向け、東京都同窓会教育支援委員会が三月末に東京都教育委員会が発表する実施要項をもとに、教職教養・専門教養・実技種目・昨年度の論文問題等を入した冊子を毎年作成しています。今年も文房具をあしらった楽しい表紙になっていました。この冊子の内容については、他の同窓会からも高い評価をいただいています。講演、過去問演習、論文演習、教職・専門教養模擬試験、さらに毎回担当講師が個別指導を行い教

育現場の課題や保護者対応等についても指導を受けることができました。以上が主な講座内容です。

初回と最終回には、講演会を位置づけ、東京都教育委員会所属の同窓の特別講師を迎え「求められる教師像・育てたい生徒像」について細部に渡って指導がありました。さらに教員採用試験合格に向けた学習や情報収集について、また集団面接の進め方や個別面接等についての答え方についての指導もいただきました。今年度、日体大の児童スポーツ教育学部第一期生の卒業を迎えるため、小学校教員の合格者も多く出ています。今年度の東京都教員採用試験最終合格者は十名、期限付き四名と報告を受けました。この講座に参加された、Sさん（昨年の実演発表会の集団行動の全体指揮者）も合格を手にしたと報告を受けました。教育実習では多くの同窓の学校で後輩がお世話になっていますが、夢の実現に向け今後ともご指導・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

海を渡った日体魂

青年海外協力隊
エル・サルバドル共和国派遣
「感謝状・授与式」
会長 高田幸一

●平成二十八年十一月四日（金）
於 東京・世田谷キャンパス

●出席者

法人 松浪理事長

大学 谷釜学長、具志堅副学長

松井副学長、久保学部長

事務局 局長、企画部長、管理部

長、大学改革推進室長

エルサルバドル共和国大使館

マルチメディア

セラヤンディア大使閣下

JICA 事務局長・小川登志夫

人材養成課課長

近藤貴之（本学卒）

事務局選考課員

若井郁子（本学卒）

平和構築復興支援室員

辻康子（本学卒）

授与者

花田真人（陸上競技 S 43 卒）

城本国昭（体操競技 S 43 卒）

山岸敏男（バスケット S 47 卒）

渡部隼二（陸上競技 S 47 卒）

その他 エルサルバドル関係者

JICA 青年海外協力隊希望在校生

合計約 50 名

司会進行 海外協力協会元理事

高田幸一

協力隊活動の概要と推移

エル・サルバドルへの隊員派遣は、昭和四十三年七月の派遣取極めの後、同年九月十二日に開始され、中南米で最初の協力隊派遣国になりました。

J O V C 事業（青年海外協力隊事業）そのものは、佐藤栄作政権下の昭和四十年四月二十日に日本政府の事業として発足し、第一次隊員二十六名が同年末から翌年初めにかけて東南アジア四カ国（ラオス・カンボジア・フィリピン・マレーシア）へ派遣されたのに始まります。

エル・サルバドルへの協力隊派遣の歴史は、内戦前の第一期と内戦終結後の第二期とに、大きく二分されます。第一期は、第一陣八名派遣の昭和四十三年から内戦の影響により派遣が一時中断された昭和五十四年までの十一年間です。

また、第二期の始まりは、長い内戦の後、平成四年一月に和平が成立し派遣再開のため一般短期緊急隊員が派遣された平成五年から今日に至ります。第一期の活動状況と推移は次の通りです。

第一期（内戦前）

約十一年にわたる第一期の隊員派遣は、まず、「サン・アンドレス体育教員養成学校」への協力、昭和五十一年）に始まった現地体育

教員の「再教育研修コース」の条件整備・協力という一連の体育教育プロジェクトへの集中的な協力があります。

これとは別に、国立青少年スポーツセンターへのスポーツ分野隊員の派遣がありました。また、芸術教育プロジェクトとしての国立芸術学校、国立音楽学校への美術、音楽などの派遣隊員、外務省調査局への日本語教師派遣という、いずれも教育文化分野における協力があります。さらに、同じ教育分野で農業高校に農業隊員、国立工業短大に保守操作部門の隊員の派遣が開始され、配属先、活動形態は異なっていますが、それぞれの隊員の努力と関係省庁・機関の理解と協力を受けて協力隊活動は順調に活動を拡大していきました。しかし、昭和五十三年、派遣開始後十年目にして、過激ゲリラの活動が目立ち始め、在留邦人を含む誘拐事件の頻発、テロ活動の激化のため、政情及び社会不安が一気に増大しました。このような状況から隊員の安全が確保しがたい上、もはや、現地情勢が効果的な協力活動を展開できる状態にはないとの判断に達し、昭和五十四年四月十日をもって全員上げる事態に立ち至りました。派遣累計七十四名でした。

日本体育大学同窓会
「マネージメント研究会」
2016」報告

会長 高田 幸一

十一月五日(土)から六日(日)に、全国同窓会主催で行われた「日本体育大学同窓会マネージメント研究会2016」に、東京都同窓会として参加しました。

○十一月五日(土)

午後二時三〇分 開会

1 挨拶

日本体育大学同窓会

幹事長 塩谷 和雄

2 スタッフ紹介

・全国6ブロック代表(副会長)

・スポーツ経営管理学ゼミ生

(書記)

・アドバイザー(6名)

3 グループ討議

・自己紹介(各一分程度)

・都道府県支部の現状と課題

・課題整理、解決の具体的方策

4 アドバイザーによる総括

○十一月六日(日)

午前九時 開会

1 グループ研究発表

・北海道・東北

(上杉正三・高田和男)

・関東・北信越(高田幸一)

・近畿・東海(高田直昭)

・中国・四国(土井敏正)
・九州(本田和人)

2 講義

「マーケティングによる

同窓会の活性化」

講師 沼澤 啓吾

(株)群馬マーケティング

センター取締役

3 質疑応答

フリーディスカッション

4 講評

統括アドバイザー 沼澤 啓吾

午前十二時 閉会

『全国各支部の共通の

現状と課題』

① 新会員の入会

若い人が加入していない

② 就職先が教員だけではなく、

多種多岐にわたっている

③ 教員にならない

などがありました。

マネージメント研究会では、参加した各県同窓会から具体的な方策を考え、自由で、より建設的な意見交換ができました。

さらに、学生の意見を聴く機会に恵まれ貴重な情報、同窓への思いを聞くことができました。

ホームページ開設にあたり

会長 高田幸一

東京都同窓会の皆様へ

いよいよ、待ちに待ったホームページが開設されます。このホームページは、これから東京都同窓会の活動状況を発信し、何が目的で、どのように行われているのか、これから何が必要になるのかを、皆様と情報を共有します。そして、情報提供の中でまた新たな同窓生の参加を期待できると考えています。さらに、同窓生が親睦を深めている様々な人たちの活動を紹介し、それらの参加も期待できると考えます。

現在、東京都同窓会は、主たる活動として、大学と連携し教育実習の講師の派遣、教員採用試験の第一次対策・二次対策と学生の支援、広報活動として東京都同窓会誌「日体魂」の発行、これからはホームページで活動状況を発信していくこととなります。どれも重要な活動です。しっかりした情報管理を行い、皆様が必要な情報が得られるように体制を整えていくつもりです。

これから始まる、ホームページを定期的に更新し、愛されるものにしていきますので、どうかよろしくご協力お願いします。

東京都同窓会ホームページ開設のお知らせ
平成29年1月15日(日)にオープン予定

東京都同窓会のホームページを開設することができました。

内容や構成、レイアウト、必要な情報が抜けていたり、知らない情報があるなど、改善点は多々あります。会員の皆さま、同窓の皆さまにおかれましては、東京都同窓会のホームページをご覧いただき、ご感想やご要望などをお寄せいただきますようお願いいたします。

○ 東京都同窓会のホームページは、下記 URL からアクセスしてください。

URL <http://www.nittai-doso-tokyo.jimdo.com/>

編集後記

会報第20号では、東京都同窓会総会と、日本体育大学同窓会関東北信越地区協議会、教員採用試験対策講座など、報告いたしました。

同窓会総会では、大山キャリア支援部門長から、学生の就職先が変化しており、就職希望者が減少しているというお話を伺いました。

教職以外の仕事をされている同窓生と若手の同窓生を如何にして同窓会活動に参加してもらうかが今後の同窓会の課題になっていきます。

29年1月中旬に都同窓会のホームページが開設します。会報と併せて同窓会の情報発信を行ってまいります。第20号やホームページへのご意見やご感想、ご要望など、左記までメールで是非お聞かせください。

東京都同窓会

公式メールアドレス

nittaidosotokyo

@gmail.com

都同窓会広報委員会

委員長 角杉美恵子